

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・年末に、懸案となっていた商店街中心部に位置する間口の広い区画に新規店が開業する予定となっている。立地してほしいと考えていた業種でもあり、集客への貢献が期待される。	
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・寒くなり、日本酒のおいしい季節を迎えることから、売上は若干上向く。また、たばこの駆け込み需要の反動が落ち着き、来客数は少しずつ回復する。	
		衣料品専門店（店長）	・これまでの陽気から一転、急に寒くなっているが、シーズンの初めに気温の変化があると、当社のような衣料関係は非常に好調になるので、このままコートの需要などが出れば、数字は順調に推移するのではないかと予想している。	
		家電量販店（店長）	・エコポイントの継続により、特需が見込める。	
		乗用車販売店（経営者）	・年末年始にかけて、新車の発表を控えており、エコカー需要の反動減も一服するのではないかと期待している。	
	変わらない		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・12月の新幹線の延伸開業に向け、現在官民共に誘客に力を入れており、その成果が出てくることを期待している。
			一般小売店〔書籍〕（経営者）	・景気、経済、政治等への不安感が募っているなかで、為替の変動が激しくなっていることから、購買意欲が高まらない状況はしばらく続くことが予想される。
			一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・年末にかけてイベントの実施を考えているものの、費用対効果でプラスになるかはわからない。
			一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・例年、年末年始は売上が伸びるが、季節要因以外では売上が伸びる要因が見つからない。
			一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・状況が良くなる要因は特に見当たらない。
			百貨店（売場主任）	・急な寒さの到来により、秋物を飛ばして一気に冬物に移行しそうな気配で、在庫面、商品供給の面が心配である。
			百貨店（企画担当）	・できるだけ早い時期に景気が上向くことを期待しているが、諸々のことを考慮すると大きく変わることはない。
			百貨店（経営者）	・急激な気温の低下により、10月中旬から秋冬物の衣料品や寝具の動きが出てきている。景気対策如何により消費者心理が回復すれば、この状況が続くと予想される。
			百貨店（経営者）	・今年はプレミアム付き商品券の発行がなく、前年の反動による売上の落ち込みが予想される。また、たばこの値上げや、家電エコポイントの対象商品縮小など消費を喚起する材料が乏しい。そうしたなかで、ラニーニャ現象の発生で冬の到来が早まり、冬物に動きが出ることを期待している。
			スーパー（店長）	・依然として、1品単価の減少、客単価の減少が続いており、価格競争は年末年始にかけますます激しくなることが予想される。暖房費がかさむ季節で、消費者の生活防衛意識もますます高くなり、価格を下げてでも簡単にものが動かない状況はこれからも続く。
			スーパー（店長）	・冬の寒さが厳しくなるにつれ、売上を左右する鍋物材料の需要が高まってくることが予想される。
			スーパー（店長）	・業績は回復基調にあるものの、競合がますます厳しくなっているため、客数の維持と買上点数の増加により客単価をアップさせなければ、今後も現在の状況は変わらない。
			コンビニ（経営者）	・たばこの買置きも底をつき、喫煙者が戻ってくることが予想される。また、たばこの値上げにより単価の増加が期待できる反面、増税をきっかけに禁煙を始めた人も多く、プラスマイナスゼロになると予想している。また、たばこを除けば前年並みであり、現状のままで推移すると予想している。
			コンビニ（経営者）	・現在、底打ちの状態であり、今後もこの状況は変わらない。
			コンビニ（経営者）	・全体的に悪いなかでも、デザートやファストフード、105円の野菜、日配品など生活必需品は好調となっている。収入が伸び悩むなかで、おいしいものや生活必需品のみを購入する傾向は今後も続くことが予想される。
衣料品専門店（経営者）	・円高、株安の影響で不景気感が一層増しており、客との会話からも、購買意欲の高まりは期待できない。			
衣料品専門店（経営者）	・客からは、景気は冷え込み、給料やボーナスカットにより生活に追われているため、衣食住のなかで真っ先に削るのは衣であるという話があり、先行きの不安感から消費意欲は低迷したまま推移することが予想される。			

衣料品専門店（店長）	・12月以降の気温が平年より低いとの予報が出ているため、冬物商材の販売期間が短くなり、バーゲンの前倒しによる利益率悪化が危惧される。	
衣料品専門店（店長）	・節約感が少し緩んできている様子が見え始めるものの、今すぐの景気回復は期待できない。	
衣料品専門店（総務担当）	・客が主に購入しているのは生活必需品であり、ゴルフ用品等の嗜好性の高い商品は厳しい状況が続く。	
乗用車販売店（経営者）	・冬を迎えるため、今後更に需要が下がることが予想される。	
乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金終了後、販売量が全く伸びておらず、この先2～3か月も同様であると予想される。	
その他専門店〔呉服〕（経営者）	・来客数は年々減っており、回復の見込みがない。	
その他専門店〔酒〕（経営者）	・年末商戦に向け様々な営業努力を行うが、年末だからといって消費者の購買意欲が向上するとは考えにくい。歳暮商戦も、スタートは早いものの期間は短く、安いものを必要だけ購入し終了すると予想している。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・客の節約志向が強まり、低価格帯の商品が売れ筋となっている。資金繰りが悪化してきており、年末に向けての景気の道筋が不透明であり、石油業界の本格的な需要の回復は、冬場の寒さ次第で大きく左右されそうである。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・週末の価格変動があり、いろいろなところで価格調整はしているものの、3～4日でまた見直さざるを得ない状況が続く。	
高級レストラン（経営者）	・披露宴等の予約に動きが見られるものの、国の対策も小手先で景気が良くなる要素があまりないため、現在の状況は変わらずに推移する。	
一般レストラン（経営者）	・金を使わないというスタイルが定着しており、外食産業、特にレストランにおいては非常に厳しい状況が続くことが予想される。年末年始の書き入れ時に客が来るか非常に不安である。	
一般レストラン（経営者）	・年末年始にかけては景気が良くなるものの、あくまでも一時的なものであり、根本的には変わらない。周辺には大きな工場地帯があり、客もその関連が多いので、円高や中国問題が関係ない国内需要が増えない限りは、エリアの景気回復は見込めない。	
観光型ホテル（経営者）	・企業の団体は減っているものの、公的な団体や同級会などは減っておらず、入込数は前年同様となる見込みである。	
都市型ホテル（スタッフ）	・年末に向け忘年会による売上の伸びが期待できるが、概ね、厳しいながらも横ばいとなることが予想される。	
都市型ホテル（スタッフ）	・臨時国会においても政治と金、中国との問題等で景気対策が進まない状況である。一刻も早く、今の状況を脱する政策を国民目線で実行してもらいたい。厳しさ、不透明さのなかで国民のマインドも悪く、消費者の二極化が更に進む懸念がある。	
旅行代理店（店長）	・11～1月の先行受注をみると、個人旅行の国内は11月が前年同期比99.6%、12月同62.5%、1月同67.1%となっており、先の見通しが立ちにくい状況となっている。海外は、やはり円高効果と思われるが、11月同159.6%、12月同207.9%となっており、更なる伸びが期待される。一方、団体旅行では国内、海外共にほぼ前年と同額程度の受注となっている。	
旅行代理店（従業員）	・デフレ感が続いているなかで、本格的な国の景気対策はこれからであり、現在の状況は変わらない。	
タクシー運転手	・当面、円高や、求人倍率が0.5を切る当期の求職状況、過剰なタクシー台数といった要素が改善する見通しはない。	
通信会社（営業担当）	・12月の新幹線延伸開業による景気回復が期待される。	
遊園地（経営者）	・天候、気温の推移や12月のボーナスの状況に左右されるが、子ども手当の効果などは期待できそうにない。	
住宅販売会社（経営者）	・年内は現状維持が続くと予想される。	
その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・冬に向けて、これ以上の盛り上がりは望めない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・国内全体が不景気で、消費減退の雰囲気が強まり、回復はあまり期待できない。
	百貨店（広報担当）	・政策効果が薄れた上、円高株安に対する不安などの高まりにより、消費を下押しする可能性が高い。

百貨店（営業担当）	・家電エコポイントは年明けから対象商品が限定されるため、年末にかけてある程度の駆け込み需要が期待できるが、その効果が衣料品にまで及ぶとは考えられない。一方、今年の中元は客単価が下がったことから、歳暮も同じ傾向で、ギフト需要は減ると予想される。
百貨店（売場担当）	・年明け以降は、初売りやクリアランスセールで競合店との戦いになるため、どこまで客を動員できるかにかかっている。
スーパー（経営者）	・特に機械系の中小メーカーが苦しんでいるため、ボーナスへの影響、ひいては年末年始の消費マインドの低下が懸念される。
スーパー（経営者）	・農水産物に高温被害が出ており、12月の相場高、デフレの進行とあいまって商品調達が厳しくなることが予想される。
スーパー（店長）	・来客数は前年を上回っているものの、依然として1品単価が下がっている状況が続いている。低単価企画の特売だけが支持されており、その日だけ来客数が伸びている。農産物の作柄も悪く、価格も上昇しており、現在の傾向は当分変わらないと予想される。
スーパー（店長）	・販売量が低迷していることに加え、競合店の新規オープンにより、景気が悪くなると見ている。
コンビニ（経営者）	・たばこ増税の影響で来客数が著しく低下しており、今後も厳しい状況は続く。
コンビニ（エリア担当）	・売上に占めるたばこの割合は非常に大きいので、9月のまとめ買いの反動と喫煙率の低下が、今後の売上に影響しているのではないかと見ている。
コンビニ（エリア担当）	・たばこ増税が来客数減少の主な理由であれば良いのだが、正確なところは分からない。加えて、円高等、経済全体の不安感もあり、景気が良くなる要素は見当たらない。
コンビニ（エリア担当）	・県内の人口減少、高齢化によるマーケットの縮小が続いているなか、景気を刺激するような要素はしばらく現われないと予想される。
衣料品専門店（店長）	・景気の回復が全く感じられず、今後も買い控えが続くことが予想される。
家電量販店（店長）	・自動車産業では、エコカー購入補助金の終了とともに売上が激減しているため、現在はエコポイント需要でまだ恩恵を受けている家電業界も、年明け以降は同じような状況になると予想される。
住関連専門店（経営者）	・海外からの輸入品もある程度扱っているが、安く展開できるような状況でもない。また、耐久消費財ということで、景気の良いところと悪いところの格差が広がってきている。依然として地方の収入は増えておらず、景気が良くなる見込みもない。
住関連専門店（経営者）	・最近では大型店志向の客が増加しており、個人商店には人が集まらない。ただし、スーパーなどの大型店でも客は多いが売上は下がっているという情報も入っている。なかなか良い方向に改善する気配が見られない。
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・年末にかけて、大手を中心に熾烈な売り込みをかけ、安売りをしている可能性が高い。そのため、デフレスパイラルに拍車がかかり、中小小売業は更に厳しくなると予想される。売上高の確保よりも利益確保を優先した取り組みや、夏場の落ち込みをどのようにカバーするかが課題となっている。特に地方の落ち込みが著しいことから、営業重点地域の見直しを図っていく。
一般レストラン（スタッフ）	・円高イコール不景気の傾向がうかがえる。当社では輸入している食材も多いため、現在の円高が続けば更に状況が悪くなることが予想される。
一般レストラン（支配人）	・市内の景気を見聞きしても良い企業がほとんどないため、年末に向け更に厳しさが増していくと予想される。
観光型ホテル（スタッフ）	・デフレ傾向と景気の先行きに対する不安感が客の財布のひもを固くしているため、来客数、単価共に、前年比をクリアするのは厳しいと予想される。
都市型ホテル（経営者）	・この先、サイトに掲載している宿泊料金を見直さない限り、宿泊部門に関しては客単価が上がることはなく、厳しい状態が続く。宴会についても、現在は5千円を切る注文も受けざるを得ない状況で、混み具合を見ても、現在の状況が改善するような好材料が見つからない。
都市型ホテル（スタッフ）	・各部門とも個人、団体の入客数、売上が前年割れとなっており、来月以降も厳しい状況が見込まれる。

		タクシー運転手	・年末を控え、乗り控えが目立つようになってきており、その傾向は続くことが予想される。
		通信会社（営業担当）	・冬のボーナスも上昇する見込みがなく、消費動向はますます低迷することが予想される。
		観光名所（職員）	・大手の1業者からの冬期間の予約が入っておらず、このままだと現状と同様に、来客数が数%落ち込む見込みである。
		美容室（経営者）	・円高が急激に進んでいることに加え、国の景気対策も進んでおらず、回復の見通しが立たない。
		美容室（経営者）	・式を挙げるカップルも少なく、婚礼シーズンも以前のような状況ではない。客足も1,000円カットなどに取られ、景気回復が見込める状況にない。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・農家、サラリーマンに加え、企業や役所も収入は低迷しており、お先真っ暗の状態が続く。
		設計事務所（経営者）	・建設会社や大工も忙しいのはごく一部で、ほとんどは仕事がいつ切れるかわからない状態だという話を聞く。当事務所も同様の状態が続く。
	悪くなる	商店街（代表者）	・零細商店ではバイトを1人また1人というように雇用切りをしており、この状態はしばらく続くことが予想される。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・年末年始に期待したいものの、身近なところでも倒産の話が聞かれるなど、行き詰っている人が多く、景気回復の要素が見当たらない。
		一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・円高の進行や景気の実勢、リーダーシップに欠ける政治を受けて、冬のボーナスと個人所得は減少する可能性が高く、消費者の購買を抑制する動きが強まる懸念される。
		百貨店（経営者）	・円高が一番の不安要素となっている。株価も連動しているため、百貨店の顧客は特に影響を受けやすい。現状はまだだが、今後大きな影響が出てくる懸念される。
		スーパー（経営者）	・米の不作で収入が減っている農家は、消費に回す金がなくなることが予想される。そのため、年末にかけて更に厳しい状況になることが懸念される。
		乗用車販売店（経営者）	・客や販売スタッフの言動を見ても、販売、業績回復の目処は全くたえず、要素も見当たらない。ただし、一部車種、新型のコンパクトカー及び法人向けのバンは受注レベルは低いものの堅調に推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金が終了したことに加え、季節的な要因もあり、今後も新車販売は苦しい状態が続くことが予想される。そのため、当社においても、値ごろ感のある中古車を中心とした販売を予定している。
		乗用車販売店（経営者）	・年末にかけては平年でも苦しい商戦となるが、当面は新型車発表の予定もないため、今年は更に厳しさが増すと予想される。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・アパレル業界の中国依存体質が裏目に出ており、各メーカーとも商品の安定供給と価格維持ができない状況である。既に今冬、もしくは来春の値上げの話もきているなかで、果たして商売になるのかどうか不安である。
		一般レストラン（経営者）	・客からは、今年は忘年会を行わないのではという話も聞かれる。景気が良くなる要素が見つからない。
		観光型旅館（スタッフ）	・来期の第1四半期は、大型の企画団体の確保により、前年に比べて来客数の増加が見込まれるが、年末までは厳しい状況が続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・数年前から自粛しているゼネコン及び食品会社の大型新年会も復活の見通しが無い。また、ロシアとの40年来の定期航空路も、先日季節運行となり成田に移行し、宿泊に少なからず影響を及ぼすことが懸念される。
		タクシー運転手	・繁華街を見てもタクシーであふれかえっており、1人の客を奪い合っている。この先、状況が良くなる要素も見当たらない。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		広告業協会（役員）	・正月の初売りに向けた新聞の広告出稿は前年に比べると好調な出足で、テレビのスポットCMも早い引き合いが来ていることから、景気はやや上向く。
		広告代理店（経営者）	・新幹線の延伸開業や、青森と盛岡のデスティネーションキャンペーンの準備等で、観光関連の受注が期待される。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・シリコンやウェハーなどの入荷や出荷量が増加傾向にある。また、景気が悪かった頃には見られなかった社員の時間外勤務も増加し、夜遅くまで残業している姿が目立ってきている。バンダーや工事業者も夜遅くまで作業していることもあり、今後も状況は良くなっていくことが期待できる。

変わらない	食料品製造業（経営者）	・先行き不透明感があるだけに良くなることは考えられないものの、円高による景気悪化の当社への影響は、小売、土産、飲食を含め少ないと予想される。
	食料品製造業（経営者）	・この先歳暮商戦に突入するが、いまの景気から考えるとかなり厳しい数字になることが予想される。
	食料品製造業（総務担当）	・歳暮需要が年々落ち込んでおり、今年も期待できない。
	木材木製品製造業（経営者）	・住宅部材の販売単価が低下し、収益が悪くなっている今の状況が、今後も3か月程度は続くと予想される。
	建設業（従業員）	・公共事業の動き次第である。
	輸送業（経営者）	・今後の収入増を見込んでいるが、軽油、車両、荷役機械の値上げを予告されているため、収支は厳しい状況が続くと予想される。
	通信業（営業担当）	・円高傾向にあるため、企業取引の縮小が見込まれる。
	金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因は見当たらない。
	広告代理店（経営者）	・広告素材として、今後期待できる目新しいものがなかなか見当たらない。
	司法書士	・設備投資に向けた資金需要もなく、低金利による住宅ローン融資がある程度は見られるものの、金利が低いことを動機とする住宅着工件数が少ないように見受けられ、景気が変動する要素がない。
	公認会計士	・クライアントの話からは、受注の増加や売上の回復の話が出てこないため、今後もこの状況は続くと予想される。
その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・冬の需要期を控えているものの、販売成績が一向に回復せず、得意先小売店の与信状況が心配である。良くなる要素が全く見当たらない。	
その他企業〔企画業〕（経営者）	・当社は住宅関係の客が多いが、受注につながるような状況にないという話を多く聞く。状況が良くなる要因も見当たらない。	
金属工業協同組合（職員）	・ある程度の販売量は確保できるが、超短納期、低単価により収益が上がらない状況のため、経営者の経営マインドが冷えてきており、今後もこの傾向は続く。	
やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・9～10月の暖かさでりんごの着色が非常に悪くなっており、高値での販売が期待できない。
	食料品製造業（総務担当）	・最需要期を迎えるものの、状況が好転する材料が見当たらない。
	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年末年始ということで実働日数も少なくなり、仕事自体も若干止まってしまうとの懸念がある。
	土石製品製造販売（従業員）	・これから冬に向け、東北の発注工事はますます減ることが予想される。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・年末以降の受注状況の見通しが全くたたない、あるいはほとんどないというところが多く、厳しい状況は続く。
	電気機械器具製造業（企画担当）	・円高の影響もあり、特に海外向け製品を扱う会社の業績悪化が懸念される。エコカー購入補助金の終了に伴う自動車消費に代表される、全般的な一般社会の消費低迷も予想される。
	建設業（企画担当）	・工事件数が量的に先細り状態であり、この状況がしばらく続くと予想される。
	通信業（営業担当）	・多少上向き始めた兆候はあるものの、取引先の値下げ要請が落ち着いているわけではないため、今後も厳しい対応が予想される。
	経営コンサルタント	・政局の混乱により経済が停滞することが強く懸念される。
	コピーサービス業（経営者）	・仕事の引き合いが少なくなってきているなかで、景気の良い業種と悪い業種がより鮮明になる。
悪くなる	農林水産業（従業者）	・米の不作や取引価格の下落、1等米比率の低下などによる収入の減少は、戸別所得補償でも穴埋めできず、前年に比べて大幅減収となることが予想される。
	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・各企業の雇用も一段と厳しくなっており、採用を手控えている企業も多いようである。また、印刷物を縮小していることから、取引先も一層厳しい状況であるため、景気は更に悪化すると予想される。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車部品については、エコカー購入補助金打ち切りの影響が長期化することが予想される。また、現状の為替水準が社内レートを割り込んでおり、円高が続けば採算が取れる状況ではなくなる。
雇用関連	良くなる	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）

	新聞社 [求人広告] (担当者)	・新幹線の延伸開業を機に出店を発表している飲食店関係もあり、来年早々にかけて多少動きが出てくるため、求人関係もやや期待される。ただし、全体として大きい動きはなく、やや上向き状態で推移する。
変わらない	人材派遣会社 (社員)	・改善する要素が全く見当たらない。
	人材派遣会社 (社員)	・派遣の業務内容の厳格化により、自由化か直接雇用化かの二択となった営業所が多く、雇用の選択肢が狭まったことにより職を失うスタッフも出てきており、事実上雇用の不安定さが表面化していく。
	人材派遣会社 (社員)	・雇用が増えない限り厳しい状況は続く。
	アウトソーシング企業 (社員)	・現在、仕事量は少しずつ回復しているが、一方で競争も激しくなっているためあまり変わらない。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	・新幹線の延伸開業による上向きを期待している。
	職業安定所 (職員)	・求人数が低下する時期であり、また、円高による雇用への影響が懸念される。
	職業安定所 (職員)	・新規求人数は前年比で2か月連続の増加となり、月間有効求人数も2か月連続の増加となっている。さらに、有効求人倍率もわずかに上昇しているものの、今後の動向については予断を許さない。
	職業安定所 (職員)	・当面、雇用調整の実施企業数は減少しない。
	職業安定所 (職員)	・一般求人数 (中途採用) は増加基調であるが、求人倍率を押し上げる力強さはない。また、新卒の求人数は、前年比でマイナスが続いており、先行きに明るさが見えない。
職業安定所 (職員)	・求人数は少しずつ増加しているものの、円高、デフレ等の影響も懸念され、予断は許されない。	
職業安定所 (職員)	・雇用調整助成金の計画届けの提出が減少していないことから、横ばい状態が続く。	
やや悪くなる	新聞社 [求人広告] (担当者)	・売上不振の流通企業や、円高のために工場の国内集約を進める機械製作会社等、本県から撤退する企業が目立っており、それに伴う再雇用の見通しが立たず、先行きは不透明である。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	・県内の各企業共、今後の経済見通しに確信が持てず、積極的な投資、動き、展開等を行いにくくなっている。全体として、生産の動きもこれから鈍化していくと予想される。円高に加え政治的に不安定な部分もあり、予算の見通しもつかないなかで、景気は下降傾向になっていくことが懸念される。
	職業安定所 (職員)	・エコカー購入補助金が終了したため、消費が上向くとは思えず、多少の悪化へ向かう懸念がある。
悪くなる	人材派遣会社 (社員)	・労働局が派遣先企業の実地調査を強化していることから、企業は安定雇用のリスク回避に動いており、受注は大幅に減少している。そのため、今後、2～3か月先の景気は悪くなる。
	人材派遣会社 (社員)	・多くの企業が円高を心配しているため、今後一層厳しくなる。